

# 町内会だより

第168号 2016. 5. 25  
東栄今本町内会連合会  
編集 総務・広報常任委員会  
電話番号 97-8644



## 豊かで明るい 安心・安全な地域づくり

(防災防犯活動の推進と環境美化運動の確立)

—たがいに助け合い、協力し合って地域の輪を広げよう—

北小運動会



### ◎ 熊本地震 を自分の事として考える。災害の特効薬はない。絶対は、絶対あり得ない

(DENSO 防災フォーラム・『いつもの備え』であなたの大切な人を守る 危機管理教育研究所代表 国崎信江) より  
この地に住むことから、各家の地盤・土地条件などのリスクを自分で判断しておかなければなりません。部屋から物を失くすことが、地震災害から逃れる最善の方法。キッチンには危険な物が溢れている。キッチンからは逃げ出すこと、揺れたら逃げる。物の固定は、逃げる時間を稼ぐこと。

- ・家具の固定・・・家具の移動とともに中身が動く。家具の高低、重い軽いに関係なく、全ての物が動く。テーブルは固定しなければ動く。
- ・テーブルの下・・・本当に安全か、安全とは限らない。『テーブルの下にもぐって安全を確保する』は小さい頃からのすり込み。『体の安全を守れ』に対して『他の安全方法をさがす』余裕と準備。
- ・建物の耐震化対策がすべてか・・・学校は避難所として機能するが、非構造部材(体育館の天井材など)の落下がある。防災頭巾は落下物に対し無意味、安全ではない。ヘルメットの優位性。
- ・激しいゆれ、全員がケガをする。でも重傷にならないための準備が必要。ものを減らす。物を固定する。応急用品の充実。質と長時間対応のための多くの量。補給。心肺停止と止血方法など、技術を研ぐこと。
- ・震度6強での対策訓練・・・知っていることで守られる命。知らないことで失う命。自分の身は自分で守る。小さい頃からのすりこみに頼らない。自宅を安全な空間にする。
- ・『避難すること有りき』から、自宅での滞留生活を推進。避難所生活をあてにしない。  
1 まず冷蔵庫の食材を利用。2 次に常温保存食材の利用。3 最後に非常食の利用。

### 熊本地震5日目【4月19日の新聞記事から】

電気なし、水道なし、ガスなし。食料も外から来ない。阪神大震災で交通が遮断された1万人余りの人工島に、住民たちが力を合わせて物資を配給する仕組みを作った。北浦浩さんが著書『私に権限を下さい』で記録している。書名の通りまとめ役を買って出た北浦さんはすぐ、地域の生協に頼み込んだ。全住民に行き渡るよう、こちらで在庫を管理させてほしいと。団結して物資の分配が進む一方、「食料を持って来い」と電話で求める人に手を焼いたこともあった。民間企業の協力もあり、一か月を乗り切った。特に大変だったのは最初の三日で、「正に戦いであった」。阪神に匹敵する揺れを経験している熊本でもきょう、丸四日が経った。避難先の食料が、まだ十分でないといえられる。交通網がなかなか復旧できない。それでも暮らしが少しでも改善に向かうことを願う。

避難した子どもたちの不安を報じる記事があった。場所が違うので眠れない。また地震が来たらどうしようと、おびえる5歳の息子に「ハイレベルなキャンプだよ」と話している、お母さんの言葉に感じ入る。

『釜石の奇跡』でも、学校以外で1000人が死んだ。『いまむらの奇跡・出来事』の準備、今からです。『地震はテレビの中の事ではない』『我が町』は、この心構え・覚悟・準備を今から・・・

### ◎ 市制64周年 安城市発展祭

5月9日〔月〕 安城市民会館サルビアホール  
安城市の発展に功労のある36名2団体の表彰の後には、バルセロナオリンピック銀メダリスト有森裕子氏による「有森流 運動でもっと元気に」をテーマに講演がなされた。マラソンで自分新を出せたこと。トイレに歩いて行けること。どれも健康の証です。安城市の新たなキャッチコピー、健やかと幸せの造語【健幸(ケンサチ)のまち安城】と関連させての講演でした。何事もあきらめないで続けることが一番。氏のひた向きな努力が今に繋がることを、体験談を交えて楽しく語られた。

### ◎ 納付期限

- ・5月25日〔水〕緑の羽根募金
- ・6月30日〔木〕日本赤十字社費・安城神社、町内会費(5月25日回覧にて納入通知書を配布します)

### ◎ あすなろ子ども会 子ども会便り

28年度に入り、あすなろ子ども会では 代官公園を会員全員で掃除した後、進級お楽しみ会を行い、楽しい時間を過ごしました。

今年は夏休みの映画鑑賞等、わかば子ども会との合同行事を計画しています。皆が子ども会活動を楽しめる様に、役員一同努めていきたいと思っております。

